

指導事例

中学校 1年生	題材名 出会い系サイトの背後に潜むもの
------------	-----------------------------------

1 題材について

社会の状況も大きく変化し、携帯電話やインターネット等の普及により性に関わる情報の入手が容易な時代となり、それに伴い、性的な逸脱行動等の問題や、性に関する事件等も複雑化、深刻化している。また、生徒の日常の生活から体験的な活動が減ったり、多忙化が顕著になったりする等、自尊心が十分に育まれにくいという状況の中で、自分を大事にする行動がとれない生徒も見られる。そこで、インターネットや携帯電話を介して起こる様々な性に関わる問題について、どのような行動選択をすべきかを考えさせ、その対処方法を身に付けさせることは重要であると考え、本主題を設定した。

2 ねらい

出会い系サイトの利用は、犯罪に巻き込まれる危険性が高いことを理解させ、自分の身を守るために正しい情報や行動を選択することができるようにする。

3 指導展開例

段階	学習内容及び活動	指導上の留意点	資料
導入	1 学級の携帯電話の所持者数やインターネットを利用した経験等について知る。 2 インターネットや携帯電話を使った性の犯罪について知る。	○ 学級や学校の実態等について理解させる。 ○ 日常化している情報技術を使った性犯罪を資料から学ばせる。 ○ 自分の身近に生じていることに気付かせる。 ○ 出会い系サイトについて説明し理解させる。 ○ 情報技術は便利だが使い方によっては、危険を伴うことに気付かせる。	・事前の調査をまとめた資料 ・警視庁サイバー犯罪対策資料 <資料1> ・警視庁サイバー犯罪対策資料 <資料2>
展開	3 出会い系サイトへの対処方法について話し合う。～① ・知らない人からの突然のメールにどう対応したらよいか ・自分ならどう行動するか 4 出会い系サイトへの対処方法について話し合う。～② ・覚えのない通話料金を請求された場合 ・電話やメールがひっきりなしに入ってくる場合	○ ワークシートの事例を踏まえグループごとに考えさせる。 ・選択した行動と理由を考えさせる。 ・気付かぬうちに性犯罪に巻き込まれる危険性があることに気付かせる。 ○ 興味本位や軽率な行動が危険を招くことを理解させる。 ○ 携帯電話やインターネットなどによる犯罪の防止には、責任ある行動をとる自覚が大切であることを理解させる。 ○ 実際に被害に遭った場合には、すぐに警察等に相談することが大事であることを理解させる。	・ワークシート 「こんな時どうする」 <資料3> 事例① ・ワークシート 「こんな時どうする」 <資料3> 事例②
終末	5 学習のまとめをする。 ・身近に起こった犯罪について知る。(声かけ事案等) ・相談窓口等について知る。	○ 自分の身近に生じている事件等に目を向けさせ、危険と隣り合わせであることを認識させる。 ○ 出会い系サイトの問題性や通報・相談方法等について確認し、まとめとする。	・警視庁サイバー犯罪対策資料 <資料4> ・巻末資料 (相談窓口)

4 教科・領域等との関連

- 心身の機能の発達と心の健康 (1年保健体育)

5 授業の配慮事項

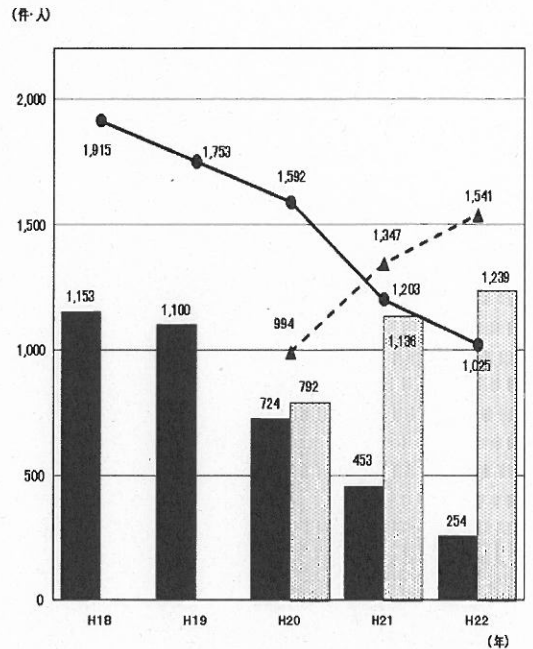
- インターネットや携帯電話の利用、所持について学級の実態を予め把握しておく。
- 最近のIT関連犯罪資料 (新聞、警視庁のホームページ等のインターネットの資料など) を参考にする。

<資料1> 平成22年中の出会い系サイト等に起因する事犯の検挙状況について

<コミュニティサイトに起因する事犯の検挙状況>

1 出会い系サイトに起因する事犯の検挙状況等

- 平成22年中の出会い系サイトに起因する事犯の検挙件数は1,025件（前年比-178件、-14.8%）。減少した主な罪種は、児童買春が254件（-104件、-29.1%）、青少年保護育成条例違反が53件（-96件、-64.4%）。
- 検挙件数1,025件のうち、出会い系サイト規制法違反が412件（前年比+59件、+16.7%）と最も多く、検挙全体の40.2%。412件のうち、禁止誘引行為は404件（+56件）、そのうち、児童による誘引は284件（+62件）。412件のうち、事業者による法令違反は8件（+3件）（いずれも届出義務違反）
- 事業者に対する指示処分は4件（前年比+3件）（児童でないことの確認義務違反2件、変更届出義務違反1件、児童でないことの確認義務違反及び変更届出義務違反1件）。
- 出会い系サイトを利用して犯罪被害に遭った児童は254人（年比-199人、-43.9%）。被害の多い罪種は、児童買春が151人（-87人、-36.6%）、青少年保護育成条例違反が42人（-71人、-62.8%）、児童福祉法違反が34人（-24人、-41.4%）。



2 コミュニティサイトに起因する事犯の検挙状況等

- 児童がコミュニティサイト（出会い系サイトを除く。以下同じ。）を利用して犯罪被害に遭った事犯の検挙件数は1,541件（前年比+194件、+14.4%）。
- 犯罪被害に遭った児童は1,239人（前年比+103人、+9.1%）。被害の多い罪種は、青少年保護育成条例違反が772人（+45人、+6.2%）、児童買春が214人（-20人、-8.5%）、児童ポルノが180人（+79人、+78.2%）。

（警視庁サイバー犯罪対策HPより）

<資料2> 出会い系サイト事件簿

● 強盗・誘拐・強姦事件

携帯電話の出会い系サイトを通じて知りあった男性にドライブに誘われたところ、自動車内に監禁されたばかりか、現金を奪われ、両親に身代金まで要求されてしまいました。

出会い系サイトでのメールの交際だけでは、悪人でもわかりません。友達と一緒に誘われたら安心してはダメ！誘われてついていったらそれが命とりになります



● 不正誘引・児童買春周旋事件

出会い系サイトの掲示板に書き込みをしたところ、だまされて性風俗店に連れていかれ、売春をさせられてしまいました。

ほんの軽い気持ちでも、出会い系サイトの掲示板に書き込みをすると恐ろしいワナが待ち受けています。お小遣いをくれるからというおいしい話は特に危険。会ってしまったらでは取り返しがつきません。



（警視庁サイバー犯罪対策HPより）



こんな時どうする



年 組 番 氏名

事例①

1 あなたは、突然こんなメールをみたらどうしますか。

「メル友募集中、私は女の子で、〇〇にはまっています。
誰かメールください。」

「はじめまして、なごみ系の俺は楽しいことを探すのが得意です。
メル友募集中！」

① どのように行動しますか。

② それはどうして(理由)

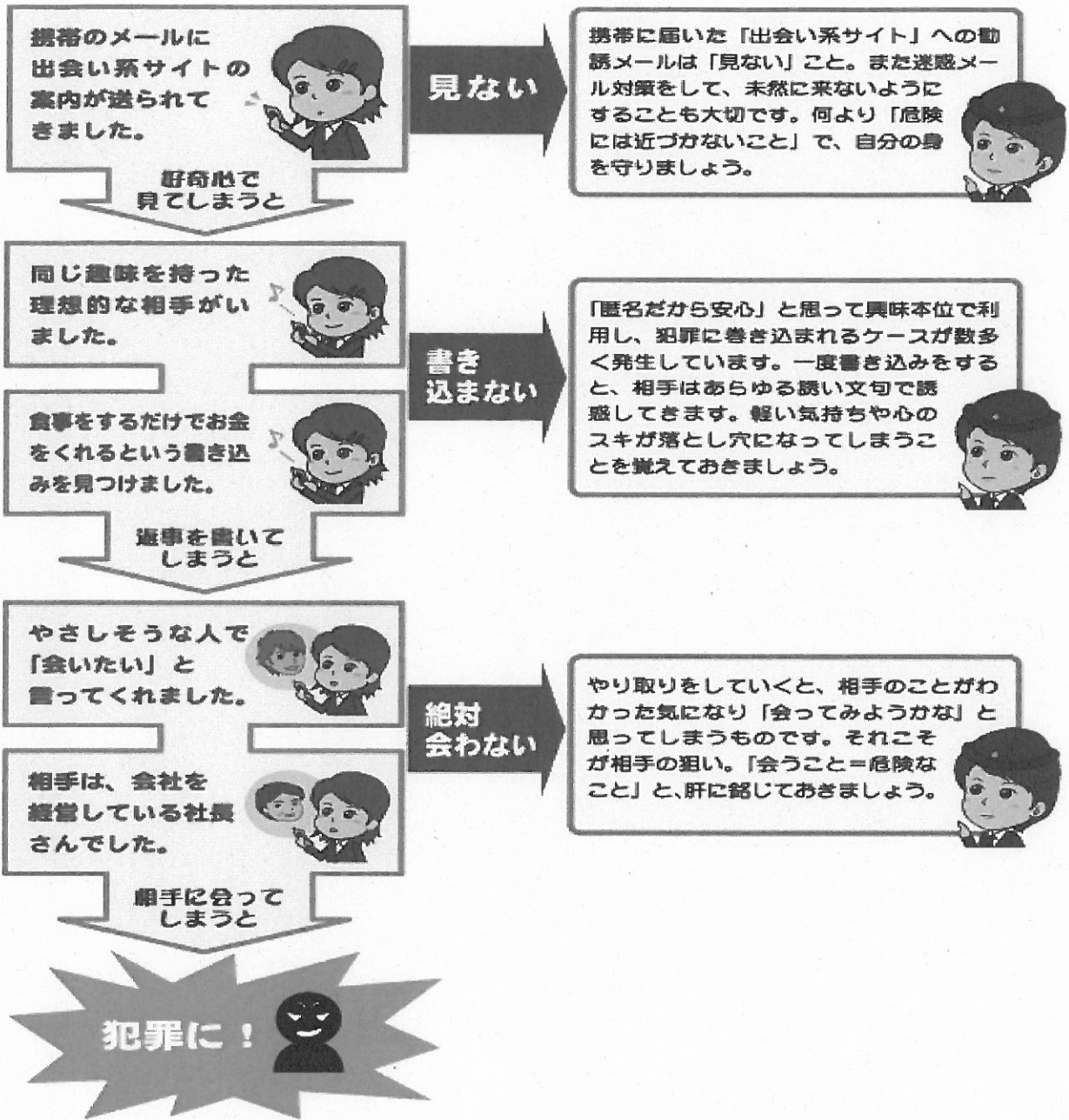
事例②

2 私の名前や自宅の電話番号、携帯電話の番号、メールアドレス等が「掲示板」や「出会い系サイト」に掲載されたため、見ず知らずの人から電話やメールが入って困っている。

*どうすれば予防できると思いますか。

3 本時の授業で学んだことをどう生かしていこうと思いますか。

<資料4> 身を守るためのルール



(警視庁サイバー犯罪対策HPより)

指導事例

中学校 1年生	題材名 自分らしさ
------------	------------------

1 題材について

思春期は、心身の発育発達が顕著であるとともに、性に関する不安や憧れ、恥ずかしさや怖さなど、様々な感情が発生し、情緒が不安定になる時期でもある。こうした状況は、大人へと成長するための大切な過程であるが、時として、興味や関心が高じ、誤った性情報やいわゆるピアプレッシャー等と相まって、性的な逸脱行動につながることもある。

そこで、思春期には、個人差はあるものの、誰しも性に対して、似たような興味や悩みをもつことを理解させ、性に関する正しい知識に基づいて適切に判断することや、自己の行動に責任をもつこと、かけがえのない存在である自他を尊重すること等の大切さに気付かせ、適切に対処していくことのできる能力や態度を身に付けることは意義深いと考え、本題材を設定した。

2 ねらい

- 思春期の性に関する不安や悩み、様々な問題等について話し合い、適切に対処しようとする態度を身に付けることができる。

3 指導展開例

段階	学習内容及び活動	指導上の留意点	資料・準備
導入	1 ピアプレッシャーについて知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 性行動を行うことが普通だとする仲間からの圧力をピアプレッシャーということを知らせ、思春期の集団の中に発生することを伝える。 ○ いくつか具体的に例示し、プレッシャーについて実感させる。 	
展開	2 ピアプレッシャーについて考える。 ・ピアプレッシャーをどう思うか。 3 ピアプレッシャーについて話し合う。 (問題点) ・誤った性情報の影響 ・他と比べ焦る気持ちの影響 ・自分の思いこみなど心理面の影響 ・誘い等に対応するスキルの欠如 (対処方法) ・友達に相談する ・大人に相談する ・情報を見極める ・自分を大切にする ・友達を思いやる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 理由を明確にしなが、各自ワークシートにまとめさせる。 ○ 男女別のグループを作り意見交換をさせる。 ○ 話し合ったことをグループごとに発表させ、話し合いを通して、問題点や対処方法について整理する。 	・ワークシート
終末	4 学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報を見極め、正しい知識を身に付けることや自他をかけがえのない存在として尊重する観点から判断することの大切さを伝え、まとめとする。 	

4 他の教育活動との関連

- 自他の尊重 (道徳)
- 性的な発達への対応 (学級活動)

指導事例

中学校 1年生	題材名 大人への第一歩
------------	---------------------------

1 題材について

子どもから大人へと変わっていく過程である思春期は、とても不安定な時期で、体の変化とともに心も大きく変化する。友人関係や学校、親、社会のことなどで、感情のコントロールがうまくいかず、何かにあたったり、中には無気力傾向に陥ったり、非行に走ったりする者も見られる。

そこで、思春期というこの大切な時期に、自他の成長について客観的にとらえさせたり、異性や親、友人とのより良い関係を保ちながら生きていくために必要な態度等について考えさせたりすることは、大変意義深いと考え、本主題を設定した。

2 ねらい

- 思春期にさしかかった自他の成長について認識し、これからのよりよい生き方について理解することができる。

3 指導展開例

段階	学習内容及び活動	指導上の留意点	資料
導入	1 思春期にさしかかった自分について考え、話し合う。 ・大人と子どもどちらにあてはまるか。	○ 自分の考えを理由を添えて発表させる。 ○ 自分自身を見つめさせ、友達の考えに触れさせることによって、自分が大人への過渡期にあることを認識させる。	
展開	2 自分に見られる大人の特徴、子どもの特徴について考える。 ・大人の特徴 ・子どもの特徴 ・どちらか判断しにくいところ 3 思春期の中にいる自分や友達の間や体、行動の状況について話し合う。 ・いろいろな変化(体、心、言動など) ・生活する上で心掛けたいこと	○ 身体的な違いだけでなく、心理面や精神的な面、言動の傾向等幅広く考えさせる。 ○ 学習活動2で考えたことや資料1をもとに、話し合わせる。 ○ 話し合いを通して、この時期は心身共に大きく変化し、新たな不安や悩みが生じたり、情緒が不安定になったりすることに気付かせる。	・「中学生の心」 <資料1>
終末	4 学習のまとめをする。	○ 思春期の変化は、個人差はあっても、誰にでも起こることを確認するとともに、自他の不安や悩みに途惑いながらも希望をもってその解決を目指そうとする態度が重要であることを伝える。	

4 教科・領域等との関連

- 人間愛・思いやり(道徳)

5 授業の配慮事項

- 資料1「中学生の心」のアンケート結果は県内A中学校の例としているが、授業を実施する前に自分の学級の実態を把握する等の工夫をする。

<資料1> 「中学生の心」 ～小学生の頃とどこが変わったのか～ (アンケート結果)

「中学生の心」 ～小学生の頃とどこが変わったのか～

県内A中

	心 の 変 化	男子	女子
ア	親に世話をやかれると、うるさいと思うようになった。	68%	74%
イ	自分のものを買うときには、自分で決めたいと思うようになった。	81%	79%
ウ	イライラすることが出てきた。	77%	82%
エ	迷いや不安が出てきた。	32%	48%
オ	劣っている、優れているなどと、人と自分を比べるようになった。	59%	76%
カ	誰かに認められたいと、時々思うようになった。	50%	35%
キ	異性と自由に話がしたいが、話しにくい時がある。	36%	20%
ク	外出する時、服装や髪の毛に気を使うようになった。	32%	71%

指導事例

中学校 2年生	題材名 男女のかかわり（男女の人間関係）
------------	------------------------------------

1 題材について

中学生の時期は、身体的な成熟に伴って性的な発達も著しく、異性に対する興味や関心が高まる時期である。また、性衝動が生じるなどの心理面の変化も見られるようになるが、男女の違いや望ましい人間関係についての理解が十分でないことから、相手を困らせたり、嫌な思いをさせたりするような行動や態度も見られる。

そこで、この時期に、男女のかかわりにはエチケットやルール、マナーが必要であることを理解させるとともに、男女が相互に理解し、尊重し合う態度を養うことが重要であると考え、本題材を設定した。

2 ねらい

○ 男女の身体面・精神面の違いを知らせるとともに、男女が互いに相手を理解し、人格を尊重する心情や態度を養うことができる。

3 指導展開例

段階	学習内容及び活動	指導上の留意点	資料
導入	1 「性に関するアンケート調査」の結果を見て、話し合う。 ・アンケートの結果からわかること	○ あらかじめ集計結果を男女別にまとめておく。 ○ 性に対する心理や男女交際に対する考え方には、男女で違いがあることに気付かせる。	・アンケート結果 <資料1> ・ワークシート
展開	2 事例を読んで、話し合う。 ・どのようにアドバイスするか 3 グループで出た意見を発表する。 4 男女交際について考える。 ・エチケット ・ルール ・マナー	○ 男女別に4～5名のグループを作らせ、意見をまとめて発表させる。 ○ 各グループの意見を基にして、付き合い方について、男女の意識の違いに注目させる。 ○ 望ましい男女交際についての友達の考えと自分の考えを比べることにより、特定の異性との関係には、自他の成長や向上を助長するものや向上を妨げるものがあることに気付かせる。	・事例 <資料2> ・ワークシート ・ワークシート
終末	5 学習のまとめをする。 ・今後の男女交際について考える。	○ 自分の気持ちだけで異性を求めるのではなく、相手のことを大切に考えることが大事であるということを押さえ、実践化を促す。	・ワークシート

4 他の教育活動との関連

- 心身の機能の発達と心の健康（1年保健体育）
- 男女相互の理解と協力（学級活動）

5 授業の配慮事項

○ 事前アンケート調査の結果については、本時の授業のみならず他の場面（道徳や朝・帰りの会等）においても活用することができる。

<資料2> 事例

中学2年生のA子さんは、B君のことについて、誰かに相談したいと思っています。

悩みの内容は・・・・・・・・

B君とは、家も近く小学校からの友だちで、家族ぐるみの付き合いをしている仲でした。中学校に入学してから、同じ学級になり、毎日楽しい中学校生活を送っていました。

私たちの学級は男女の仲がよく、男女を問わずその日の出来事について楽しく会話をしたり、協力したりして学級の色々な活動に取り組んでいました。

B君はその学級の委員長を務めていて、リーダー的な存在でした。

そんな中で、私は、日増しに学級のみんなをぐいぐい引っ張るB君を少しずつ意識するようになり、B君の事ばかりが気になり始めました。

B君とは、音楽の話、友達のことなど何でも話すことができ、一緒にいる時は、時間があつという間に過ぎてしまう気がして、幸せな気持ちでいっぱいでした。

ある日、B君と仲のよい友達四人で遊園地に遊びに行きました。

その帰り、家も近い私たちは二人っきりになる時間がありました。その時、B君が手をつないできました。

私は一瞬ドキッとしましたが、「どうしよう」と思いどきどきしながらそのまま歩き、家の近くで分かれました。

それ以来、B君は帰りに一緒に帰ろうと誘ったり、何気なく体に触れたりするようになり、二人で過ごす時間も増えてきました。

一ヶ月くらい経った頃、B君から、今度の日曜日に家の人が出かけて、誰もいないから家に遊びに来ないかと誘われました。

私はB君の家に行って二人っきりになるのが少し怖い気もするけど、断ると嫌われてしまいそうで悩んでいます。

どうしたらよいでしょうか。



中学校 3年生	題材名 男女の特性と協力
------------	----------------------------

1 題材について

中学生期には、自我の目覚めとともに、性的な欲求が発現し、異性への興味や関心が高まり、異性の友人を求めたいという気持ちをもつようになるが、このことは、自然なことであり人間として大人に向かう過程で誰にでも起こる変化である。

また、これまでは学校や社会において、男女が分けられる場面が多かったが、最近では、男女共同参画の考えから男女共習化や職業選択の幅の広がりなど、性別による制約等は少しずつなくなっている。

そこで、卒業を間近に控えたこの期の生徒に対して、健全な異性観に立った望ましい男女関係の在り方や、性差にとらわれない「自分らしさ」について考えさせることは大変意義深いと考え、本題材を設定した。

2 ねらい

- 男女の特性や役割を理解するとともに、男女の枠にとらわれない生き方について認め、互いの立場を尊重しようとする態度を身に付けることができる。

3 指導展開例

段階	学習内容及び活動	指導上の留意点	資料
導入	1 アンケート調査の結果について話し合う。 ・男らしさ ・女らしさ	○ 男らしさや女らしさの基準及び根拠等について考えさせる。 ○ 男女のイメージは曖昧なものであり、それにとらわれすぎる必要のないことに気付かせる。	・事前アンケート ・ワークシート
展開	2 男女の在り方について考える。 ・昔の男女の役割や地位 ・現代の男女の役割 ・性差別問題 ・日常にみられる性差に関する問題(言葉の掛け方、家事等の分担) 3 異性に対する言葉掛けについて練習する。 ・ものの頼み方 ・注意の仕方 等	○ 男女の役割や地位等の変遷について、資料で確認させ、現代との違いについて考えさせる。 ○ 具体例をもとに、性差だけを理由に差別することの理不尽さに気付かせる。 ○ 性差に関する過去の制度や習慣等がまだ現代社会や日常生活に影響を及ぼしている場合があることを押さえる。 ○ 具体的な場面を設定し、よい伝え方とよくない伝え方でロールプレイさせ、感じたことを発表させる。	・歴史に見る男と女の役割・地位 <資料1> ・職業名の移り変わり<資料2>
終末	4 学習のまとめをする。 ・今後の生き方について考える。	○ 男女の特性等を理解するとともに、性別にとらわれない生き方についても尊重する必要があることを押さえ、実践化を促す。	

4 他の教育活動との関連

- 性的な発達への適応(学級活動)

5 授業の配慮事項

- 指導者が、生徒に適切なアドバイスができるように、特に社会における性差別問題については事前に十分確認しておく。
- アンケート調査及び本時の指導にあたっては、生徒の実態(性同一性障がい等)に十分配慮する。

<資料1> 歴史に見る男と女の役割・地位

男は力仕事、女は子育てだったのかしら？



弥生時代



貴族達の時代



自分の娘も道具として使っなんて。



まるで男中心の世界ね。



武士の時代



明治・大正・昭和・平成



選挙

1889年 選挙権は…
(明22年) 25歳以上の男子

1946年 成人男女が選挙権
(昭21年) をもつ

子供が産めないというだけで女の人には離婚されたそうよ。



女が外で働かないなんて、とんでもないことだったんだって。



<資料2> 職業名の移り変わり

以前は男性のみの職業 と思われていたもの	・航空管制官 ・タクシードライバー	・トラック運転手 ・大工
以前は女性のみの職業 と思われていたもの	・保育士 ・保健士	・看護師 ・養護教諭 など
名前が以前と変わった 職種	・スチュワーデス → 客室乗務員・フライトアテンダント ・保母 → 保育士 ・看護婦 → 保健婦・看護師・保健士	



教育技術MOOK「だれにでもできる性教育～子どもたちが正しい性の知識を身に付けるために」
(小学館)より転載